

新しい「新任教員研修会」の検討の記録

柳 澤 良 明 (教育学部教授・調査研究部長)
木 村 正 司 (元医学部准教授・調査研究部委員)
吉 田 秀 典 (工学部教授・調査研究部委員)
葛 城 浩 一 (大学教育開発センター准教授・調査研究部委員)
佐 藤 慶 太 (大学教育開発センター講師・調査研究部委員)
野 口 里 美 (修学支援グループチーフ)

1. はじめに

本学では、毎年5月に新任教員研修会を実施している。この研修会の目的は、「本学の新任教員を対象に、国立大学法人を取り巻く諸情勢と本学の今後の課題及び大学教育等について、新任教員の理解を深めること」(平成21年度香川大学新任教員研修会実施要項)である。この研修会では、午前に大学全般に関する研修プログラムが、午後に大学教育に関する研修プログラムが組まれている(稿末資料1参照)。

学士課程におけるFDが義務化された今日、特に後者の大学教育に関する研修プログラムは重要性を増してきている。そうした観点に照らせば、本学で従来行われてきた新任教員研修会は、どちらかといえばガイダンス的な要素の強いものである。すなわち、現在、全国的に行われるようになってきている、授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識や技術を学ぶような「新任教員研修会」(以下、従来行われてきた新任教員研修会との違いを表すために括弧付きで表記)とは性格の異なるものであるといえる。

そうした、いわば新しい「新任教員研修会」の導入・実施の必要性はこれまでも認識されてはきた。しかし、平成20年度文部科学省戦略的大学連携支援事業の採択を機に設立された「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(以下、SPODと表記)に加盟したことで、その機運は飛躍的に高まった。すなわち、愛媛大学や徳島大学では、そうした「新任教員研修会」が既に実施されており、高知大学もSPODに加盟したことを契機として、平成20年度から「新任教員研修会」が実施されていること、またそれだけでなく、各大学で実施している「新任教員研修会」は、県下のSPOD加盟校に開放されているという段階にあることが認識された。これによって、本学でも新しい「新任教員研修会」の導入・実施の機運が飛躍的に高まったのである。

具体的な検討に先立って行われたのが、徳島・高知・愛媛大学で実施されている「新任教員研修会」への実際の参加である。その後、その参加者を中心として、新しい「新任教員研修会」についての検討を行うワーキンググループが設けられた。そして、そのメンバーが、愛媛大学で実施された「ファカルティ・ディベロッパー養成講座」に参加した。そこで、愛媛大学や徳島大学で「新任教員研修会」に携わっている先生方のアドバイスをいただきながら、本学で平成22年度より新たに導入・実施可能な「新任教員研修会」の叩き台を作成した。その叩き台をもとに、ワーキンググループで検討が行わ

れ、素案が作成された。そして、その素案をもとに、調査研究部でさらなる検討が行われ、平成22年度より新たに導入・実施される「新任教員研修会」案が作成された。本稿は、その一連の過程を記録するものである。

(葛城浩一)

2. 先行大学の「新任教員研修会」への参加

2-1. 徳島大学

(1) 主催

徳島大学教育委員会・FD専門委員会

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)

(2) 期日・場所

平成21年8月10日(月)～11日(火)、徳島大学大学開放実践センター

(3) 参加対象者

- ・徳島大学：過去1年以内の採用者で、助教の者及び大学院生
- ・徳島県下のSPOD加盟校及びその他SPOD加盟校

(4) 研修の目的・目標

平成21年度徳島大学全学FD実施計画に基づき、新任教員を対象に教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善を図る。

プログラムでは授業設計と教育技術について学ぶことを目的とし、主な活動内容はシラバス作成と模擬授業である。体験を通して、授業の目的、到達目標の設定、授業実施の留意点、評価方法等について理解し、具体的な授業計画を立て、模擬授業を実施する。これらの活動を通して自身の授業について考え、振り返ることで、実践的な教育力の向上を目指す。

- 1) FD活動の理念、活動計画を理解する
- 2) 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する
- 3) 授業研究の仕方を理解し、実践できるようにする
- 4) FD参加者同士の仲間づくりができる

(5) 概要

平成21年度徳島大学FD推進プログラム「新任教員を対象とした教育力開発基礎プログラム」は、8月中旬の2日間に渡り、徳島大学大学開放実践センター授業研究インテリジェントラボにおいて開催された。本企画運営は徳島大学大学開放実践センターが担っている。対象者は、過去1年以内の採用者で助教のもの及び大学院生であり、参加者は32名であった。これには、徳島県下のSPOD加盟校である阿南高専からの3名が含まれる。研修会では、1) 参加型授業についての講義／小グループワークショップと、2) 参加者全員による模擬授業実演評価の2つを大きなテーマとして取り上げている。

1) 参加型授業についての講義／ワークショップ

研修初日は、まず午前中に4グループに分かれ、「参加型授業とは」と題してワークショップ

ブを行なった。グループワークでは、短時間により多くの意見収集を図るための手法であるKJ法を利用し、それぞれのグループ内で参加型授業に対する問題、意見等を出し合い、それをまとめていく行程を体験した。グループ内での話し合いの後には必ずグループ間で「共有」する時間を設けており、またグループワークで作成されたプロダクトは、この研修会の終了まで自由に閲覧できるようにしている。

続いて、センター講師が、「Juggling入門」という実際の自身の参加型授業を例として取りあげ、プレゼンテーションを行った。短時間ではあるが、実際にテニスボールを手でジャグリング指導を経験できた。講義ではMeaningful class、Confidence to gain class、Link to near future (realistic objectives)、Association with someone、Secured environment、self-Governance in studiesを授業構築の要素として挙げていた。この後、徳島大学教員研修用配布冊子をもとに簡単な解説がなされている。

2) 模擬授業

徳島大学でのFD研修プログラムの目玉は、この模擬授業実演であると言えよう。2日目は午前午後を通して、この研修受講者全員に模擬授業を行なってもらうことになっている。初日午後後半は翌日の準備に費やされ、各自シラバスの作成と模擬授業資料、授業進行計画表の作成にあたるのである。進行計画表とは、授業1回分の授業内容の時間配分を時系列に羅列し表としたもので、模擬授業はそれに従って行われる。授業で用いるパワーポイント資料は、過去に授業用（あるいは学会発表用）に作成したものをもとに短縮版としたものが大半である。与えられた時間は、授業の意図の事前説明5分、模擬授業20分、振り返り5分から成る1人30分である。模擬授業中、発表者以外は学生になぞらえられるが、一方で評価者でもあり、後で配布されたコメントシートに記入し、フィードバックすることになる。

こうした模擬授業の試みは、理系大学の性格がある故に、主に大学院生対象となるようなかなり専門的内容であっても十分理解できるグループ分けが可能であることで成り立つのかもしれない。もちろん各学部のサポートは十分に要求されており、後日、参加者の中から学科長、FD委員長臨席での公開授業を行い、将来的にもフォローアップが実施されているとのことであった。

(木村正司)

2-2. 高知大学

(1) 主催

高知大学総合教育センター大学教育創造部門

(2) 期日・場所

平成21年9月1日(火)、高知大学人文学部第1会議室

(3) 参加対象者

- ・新規採用教員（大学での授業担当経験5年未満）
- ・新たに大学の授業を担当した教員
- ・昨年度対象者で都合により欠席した教員
- ・参加を希望する教員

(4) 研修の目的・目標

- 1) 適切な授業の目的・学修の設定ができるようになる。
- 2) わかりやすいシラバスを書けるようになる。
- 3) 学習成果（ラーニングアウトカムズ）を意識して授業デザインができるようになる。
- 4) 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができるようになる。

(5) 概要

3名のファシリテーター（センター専任教員）と事務員数名のもと、計26名の参加者が5チーム（5人×4チーム、6人×1チーム）に分かれ、以下のような活動に取り組んだ。以下、当日の活動を時間の経過に即して記す。

1) オリエンテーション／アイスブレイキング（10：00～10：40）

センター長挨拶（5分）、スケジュール説明（5分）に続き、アイスブレイク（30分）が行われた。

アイスブレイクではまず、「あなたのいちばん会いたい人は誰ですか」、「あなたの欠点を一つ教えてください」などの「メッセージ・カード」入りの、同大学生が作成したオリジナル・トランプを用いて「ババ抜き自己紹介」が各チームで行われた。自己紹介に続き、各チームのメンバーにより、チーム名が決められた。

2) ミニ講義Ⅰ：授業デザインの基礎知識を得る（10：40～11：20）

講義（15分）、練習問題（25分）が行われた。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室編『もっと！！授業を良くするために－シラバス作成から成績評価まで－（Vol.1）』の「第1章 シラバスの書き方」をもとに、「シラバスとは何か」「シラバス各項目の書き方」「授業題目・キーワードの書き方」「授業目的と到達目標の書き方」についての講義が行われた。

続いて、「学習目標に関する練習問題」（プリント）が配布され、各自での回答の作成、各班からの発表の後、模範解答にもとづいての説明がなされた。

3) グループワークⅠ：授業デザインのためのスキルを修得する（11：20～13：00）

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室編『もっと！！授業を良くするために－シラバス作成から成績評価まで－（Vol.1）』の「第2章 様々な授業形態－授業を組み立てる多様な要素－」「第3章 講義を『もっと』良くする工夫」が配布されるとともに、各チームに同じ本が人数分ずつ配布された。この本をもとに、各チームが仮想の授業のシラバスを共同で作成した。各チームは用意されたノートパソコンでシラバスを作成し、USBで提出した。

4) 中間プレゼンテーション（13：20～14：15）

各チームから提出されたシラバスの「授業題目」、「授業のテーマと目的」、「達成目標」についてのプレゼンテーションがなされ、質疑応答が行われた後に、ファシリテーターからもコメントが加えられた。

5) ミニ講義Ⅱ：成績評価と学習者へのフィードバックについての基礎知識を得る

（14：15～14：55）

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室編『もっと！！授業を良くするために－シラバス作成から成績評価まで－（Vol.1）』の「第4章 学生の成績評価」をもとに、「成績評価とフィードバック」についての講義が行われた。

ドバック」というテーマで、「厳格な成績評価」、「アウトカムを重視した教育」、「アセスメントとは」、「バックワード型（学習成果に立った授業設計）」などについて講義が行われた。

6) グループワークⅡ：適切な成績評価およびフィードバックを行う（15：10～15：50）

グループワークⅠと同様に、各チームは「成績評価の方法」、「フィードバックの方法」を共同で作成し、USBで提出した。

7) プレゼンテーション（16：15～17：05）

各チームのプレゼンテーションプリントおよびコメントシートが配布され、各チームがプレゼンテーションを行った。各チームのプレゼンテーションに対しては、参加者からの質疑応答がなされるとともに、ファシリテーターからもコメントが加えられた。また、コメントシートへの記入も各チームの発表ごとに行われた。

(6) その他

1) 実施時期の決定

夏休み期間に実施する理由として、第一に、参加者が参加しやすい時期であること、第二に、前期の授業を経験していることにより研修効果が高まることが挙げられた。

2) 実施日数と研修内容

今回の研修は、1泊2日で実施される研修を1日に圧縮して実施したとのことであった。そのため、「さまざまな授業形態」、「模擬授業」は取り上げられず、シラバスの作成が中心テーマであった。

(柳澤良明)

2-3. 愛媛大学

(1) 主催

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

(2) 期日・場所

平成21年9月2日（水）～3日（木）、国立大洲青少年交流の家

(3) 参加対象者

1) 一昨年度から今年度にかけて大学等に採用された、授業担当または担当予定の教員（授業担当経験5年以上を除く）

2) 参加を希望する教員

(4) 研修の目的・目標

- 1) 適切な目的・目標設定ができるようになる
- 2) わかりやすいシラバスを書けるようになる
- 3) 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる
- 4) 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる
- 5) 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができるようになる

(5) 概要

本研修は体験型の研修である。すなわち、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室が独自に編

集した冊子『もっと！！授業を良くするために（Vol.1・2）』を用い、当該冊子に記載された内容を複数のセッションに分け、それらに対応したミニ講義とグループワークを繰り返すものである。グループは4人程度で1つのグループが形成される。ミニ講義は30分～45分程度、また、グループワークは45分～1時間半程度となっており、グループワークに時間を多く割いている。

研修は二日間にわたって行われる。一日目には、良い講義／悪い講義、シラバスの書き方、講義方法、そして成績評価に関して講義を聞いた上でグループワークを行う。そこで体得したものを、実際の講義の準備、講義の進行、成績評価に活かすことを目的に、二日目には、それらを意識しながら講義を実施し、講義の後、教育企画室のスタッフなどから講評を受ける。

前述の通り、本研修はミニ講義とグループワークを繰り返すものである。こうした形態をとっている背景として、単に新任教員に授業を担当するにあたってのノウハウを提供するのではなく、異なる学部あるいは機関（大学、短大、高等専門学校）の教員が普段着で肩書きなしの対等な意見交換をすることで学習効果を高めようという意図が伺える。また、異なる学部あるいは機関の教員が緊張することのないよう、初期の段階でお互いを氷解させるための内容が盛り込まれており、その後の進行は実にスムーズである。

本研修は内容が濃く、それが二日間にわたって続けられる。しかし、参加者は真剣に講義に耳を傾け、作業を行うという姿勢が印象に残る。研修のプログラムには無い時間帯（夜遅く）においても参加者全員が作業を行っている。一日のみの研修ではこうした点は望めないことから、宿泊をとまなう研修ならではの印象を受ける。また、場所が大学構内などではなく研修施設であることから、参加者は研修だけに傾注することができる。研修場所の選定に関しても、概ね正解であると考えられる。

（吉田秀典）

3. コンテンツの検討

3-1. FDer 養成講座での叩き台の作成

大学教育開発センター調査研究部では、先行大学で実施されている「新任教員研修会」への参加者を中心として、「新任教員研修会」についての検討を行うワーキンググループを設置した。そのメンバーが10月10日（土）～11日（日）、愛媛大学で実施された「ファカルティ・ディベロッパー養成講座」に参加した。

本講座は、FDを担当することになった教職員（ファカルティ・ディベロッパー、以下FDerと表記）が職場で効果的なFDプログラムを実施するために必要な技術を身につける事を目的に実施されているものである。具体的には、各大学のFD実施要項、またはFDプログラムの体系化マップのいずれかを、実際に作成する形態で進められた。

そこで、FDerとしての必要な技術を身につけつつ、本学で平成22年度より新たに導入・実施可能な「新任教員研修会」の叩き台を作成することとした。まず、本学教員が実際に参加した「新任教員研修会」のうち、徳島大学（2-1参照）と愛媛大学（2-3参照）での研修会の報告をもとに、2種類の実施形態を検討した。

徳島大学では、初日に数時間のグループワークはあるものの、個人でのシラバス作成及び模擬授業実演が主な内容である。参加者各自が実際に実施する授業について、具体的な授業計画を立て、模擬講義を実施し、コメントシートにて他の参加者の評価がフィードバックされる。これらの活動を通して自身の授業について考え、振り返ることで、実践的な教育力の向上を目指すことを目的としている。

一方、愛媛大学では、『恐竜学』、『恋愛学』等、参加者の専門から離れた内容のテキストに基づいて、ミニ講義、シラバス作成を行っていた。参加者の専門から離れた内容とすることで、参加者が対等な立場で意見交換し、授業構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループワークとして体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけることを目的としていた。

これら各大学の実施形態について、愛媛大学や徳島大学で「新任教員研修会」の企画実施に携わっている教員から様々な意見をお聞きし、両大学で行われている新任教員研修会のメリット、デメリットを検証した。

徳島大学モデルの場合

メリット：実際の授業実施に即効性がある。

コメントシート等でフィードバックされることにより、自分では気がつかない点についてブラッシュアップできる。

デメリット：ある程度専門が類似していないと、グループ分けやコメントが難しい。

グループワークの時間が少なく、参加者同士の交流が乏しい。

愛媛大学モデルの場合

メリット：研修自体がグループ学習形式であり、学生参加型授業を体験できる。

専門から離れた内容であるため、学部や職位等を越えて交流ができる。

デメリット：自分自身の授業実施（シラバス作成等）に即効性がない。

架空の授業についてのシラバス等の作成に対して違和感がある。

以上のことから、目的として何に重点を置くかという点や、本学で実施する場合、よりよい形態はどちらかという点について検討した。その結果、本学は学部数も多い（6学部）ことから、同時に採用になった教員同士の交流を大切にしたいという点や、専門が多岐にわたるという点に鑑み、素案には愛媛大学モデルを選択した。

（野口里美）

3-2. 調査研究部での検討

「ファカルティ・ディベロッパー養成講座」の機会を利用して作成された「新任教員研修会」の素案をもとに、10月以降調査研究部では、内容をつめる過程に入った。

最初に、徳島大学モデル（参加者の専門に準拠した内容）と愛媛大学モデル（架空の授業を企画し、グループワークを重視する内容）のメリット・デメリットが再検討された。香川大学において

想定される参加者は、様々な学部に所属していることが考えられること（徳島大学の参加者は、比較的近い分野からの参加者がほとんどで、その職位は全て助教である）、新任教員研修の目的が、単に即効性のあるノウハウの取得だけではなく、参加者がグループワークを通じて一つのものを作り上げるそのプロセスにもあるということを考慮し、本学の「新任教員研修会」のプログラム案が作成されることとなった。

素案がモデルにしている愛媛大学の「新任教員研修会」のプログラムは、レクチャーとして、①シラバスの書き方、②様々な授業方法の紹介、③よりよい成績評価の仕方があり、このレクチャーをそれぞれ踏まえる形で、シラバス作成・ミニ授業の企画・実施のグループワークが行われるという構成になっている（2-3参照）。この構成を基本的には踏襲しつつ、本学の「新任教員研修会」として適切な内容にすべく、プログラムの構成について議論が行われた。

調査研究部のプログラム案において、愛媛大学のプログラムとは大きく異なっている点が二点ある。第一に、一日目の最後に設けられている中間発表の形態についてである。愛媛大学のプログラムでは、中間発表をプレゼンテーション形式で行っているが、調査研究部のプログラム案では、ポスターセッション形式を組み込むことにした。具体的には、中間発表は、①プリントアウトしたシラバスを壁ないしは黒板に張りだす、②参加者全員が附箋紙をもち、それぞれのシラバスにコメントを貼る、③コメントを参考に、各グループが修正を加える、④修正案を踏まえてグループで発表、⑤質疑応答、という行程をとって行われる。最終発表と変化を持たせることができると同時に、参加者がポスターセッション形式の発表についてもノウハウを得ることができるという点で、この方法が採用されることとなった。

第二に、最終発表の形態である。愛媛大学の場合、これは、①授業紹介（3分）、ミニ授業（10分）、他グループからのコメント（3分）、討議・検討（12分）という構成をとっている。調査研究部のプログラム案では、参加者全員に発表の機会を持たせるために、授業紹介をカットし、逆にミニ授業の時間を24分と増やすこととした。この24分では、15回の授業のうち3回を想定して、3つのミニ講義をそれぞれ別の参加者に行ってもらう（例えば、授業の概要を説明する1回目の授業の他、5回目の授業、最終回の授業）。中間発表の担当者以外の3名が発表することによって、全員が中間発表ないしはミニ講義の機会を持つことになる。なお、最終発表は時間を有効に使うために、3グループずつ、二部屋で行う。最終案として確定したプログラムについては稿末資料2を参照されたい。

（佐藤慶太）

4. おわりに―その後の経緯

他大学で実施されている「新任教員研修会」への参加、調査研究部内に設置したワーキンググループでの検討を経て、調査研究部は、平成22年1月に「平成22年度 香川大学新任教員研修会『よりよい授業のためのFDワークショップ』実施要項（案）」を作成した。

本学で従来行われてきた新任教員研修会と異なる点としては、以下の三点が挙げられる。第一に、主催が大学教育開発センターの調査研究部から香川大学へと変更されている点である。調査研究部

という大学教育開発センター内の一つの組織が実施する研修会ではなく、香川大学全体で実施する研修会へと、その位置づけが大きく変化しているのである。実際に研修会の運営を担う実施委員には調査研究部の委員があたることになるだろう。しかし、「新任教員研修会」の主催が香川大学になるということは、本学での授業づくりにおいて大きな一歩である。

第二に、研修内容が大学での授業づくりにシフトしている点である。本学で従来行われてきた新任教員研修会では、メインとなる研修内容は授業づくりではなく、どちらかといえば大学組織に関する事務的な内容であった。すなわち、香川大学の教員として勤務する者が知っておくべき内容が大半を占めていたのである。しかし、新しい「新任教員研修会」では、「シラバスの書き方」、「模擬授業」など、大学での授業づくりの力量を高めることがメインとなっている。そのため、『よりよい授業のためのFDワークショップ』というタイトルが付けられ、授業づくりにウェイトが置かれていることが強調されている。

第三に、第二の点と関連して、受講対象者が香川大学内の新任教員からSPOD加盟校の教員へと拡大されていることである。本学で従来行われてきた新任教員研修会は、事務的な内容がその大半を占めていたことから、香川大学の教員向けに限定された内容となっていた。研修内容が香川大学の教員に限定された内容から、大学での授業づくりを中心とした共通性の高い内容へと変化したことに伴い、新しい「新任教員研修会」は、SPOD加盟校の教員も参加できる内容になっている。県内あるいは県外からの参加者も含め交流を図る中で、大学での授業づくりの力量を高める機会を提供することが目指されている。

これらの点から、新しい「新任教員研修会」は、本学で従来行われてきた新任教員研修会との役割分担を図りながら実施されることになる。新しい「新任教員研修会」が立ち上がることにより、従来行われてきた新任教員研修会の研修内容にも独自性が生まれ、2つの新任教員研修会が果たすべき役割が明確になる。従来行われてきた新任教員研修会は、新しい「新任教員研修会」とは別に、香川大学の教員として身につけるべき内容を中心に研修内容を見直していくが必要になる。従来行われてきた新任教員研修会はその点での重要性を増すことになる。

新しい「新任教員研修会」を実施する具体的な方法は、実際に開催されるまでの間にさらに修正が加えられていくことになる。しかしながら、研修会自体の基本コンセプトは本稿に示したとおりである。新しい「新任教員研修会」が、香川大学での授業づくりにおける教員の力量向上に大きな役割を果たすことが期待される。

(柳澤良明)

平成21年度 香川大学新任教員研修会日程表

日時：5月21日(木)9:00～17:20

研究者交流スペース(研究交流棟5階)

時 間	事 項
9:00～	受 付
9:30～	香川大学教育研究改革の方向について 一井 眞比古 学長
10:10～	香川大学のコンプライアンスについて 高木 健一郎 労務担当理事
10:30～	本学における学術研究の推進について 前田 肇 学術担当理事
11:10～	(休 憩)
11:20～	マスコミとのつきあい方 朝日新聞社 丸亀支局長 高山 桂一
12:00～	(休 憩)
13:15～13:30	午後の部開会挨拶 武重雅文 大学教育開発センター長
13:30～13:50	アイスブレイキング 【葛城 浩一 大学教育開発センター准教授】 (研修会の意図説明・自己紹介・簡単なグループワークなど)
13:50～14:35	1.「全学共通教育の理念と概要」 情報提供と解説【武重 雅文 大学教育開発センター長】 グループ討論, 意見の共有・質疑応答
14:35～15:20	2.「学生のメンタルヘルスについて」 情報提供と解説【杉岡 正典 保健管理センター講師】 グループ討論, 意見の共有・質疑応答
15:20～15:40	(休 憩)
15:40～16:25	3.「FD・学生による授業評価」 情報提供と解説【柳澤 良明 大学教育開発センター調査研究部長】 グループ討論, 意見の共有・質疑応答
16:25～17:10	4.「授業実践例紹介」 情報提供と解説【大久保 智生 教育学部准教授】 グループ討論, 意見の共有・質疑応答
17:10～17:20	修了式, アンケート記入
17:20～17:30	(休 憩)移動
17:30～	交歓会 〈大学会館1階食堂〉

平成22年度 香川大学新任教員研修会『よりよい授業のためのFDワークショップ』実施要項(案)

1. 主催

香川大学主催

2. 実施日

平成22年9月初旬(1泊2日)

3. 会場

四国電力研修所

4. 参加対象者

H21年5月～H22年4月までに新規採用された教員
(ただし大学での授業担当経験5年以上の方を除く)
参加を希望する教員

5. 参加対象校

香川大学・香川県内 SPOD 加盟校

6. 実行委員

香川大学大学教育開発センター調査研究部会議委員

7. 目的

授業担当するにあたって、必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程を体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけます。

8. 目標

- ① 適切な目的・目標設定ができるようになること。
- ② わかりやすいシラバスが書けるようになること。
- ③ 様々な授業方法を知り、目的・目標に合った方法を選択できるようになること。
- ④ 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになること。
- ⑤ 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができるようになること。

9. 研修形態

- ① 講師による講義と個人・グループワークで進めます。
- ② 研修自体がグループ学習形式です。(学生参加型授業を体験できます。)

10. その他

- ① 『愛媛大学FDハンドブック』第一巻、第二巻をテキストとして使用します。
- ② 研修が長時間にわたりますので、普段着で参加してください。
- ③ 2日間通しの参加になります。1日だけの参加はできません。
- ④ 旅費については、各自ご負担になります。なお、食事代、レクリエーション費等(5,000円程度)は、当日会場にてお支払いいただくことになります。詳細については後日連絡いたします。
- ⑤ 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行うことがありますのでご了承ください。

11. 日程表

■第1日目

時刻	内容
9:00～9:30	受付
9:30～9:50	(1) オリエンテーション 開会あいさつ 研修のねらいと意義 進め方とスタッフ紹介
9:50～10:20	(2) アイスブレイク 参加者自己紹介・交流
10:20～11:00	(3) グループワークⅠ「よい授業・悪い授業」 ① グループワーク ② 情報共有(発表・まとめ)
11:00～12:00	(4) 講義Ⅰ「様々な授業方法」 ① 講義形式のメリット・デメリット ② 双方向型授業のコツ ③ 体験型授業 ④ 参加型授業
12:00～13:00	昼食
13:00～13:50	(5) 講義Ⅱ「シラバスの書き方」 ① 目標設定の立て方 ② 授業計画の立て方 ③ 記述方法
13:50～14:40	(6) グループワークⅡ「共通教育科目の開発」 ① 目標設定 ② 授業計画 ③ シラバス作成 ④ 今後の手順を説明
14:40～14:50	休憩
14:50～15:20	(7) 講義Ⅲ「よりよい評価の仕方」 ① 成績評価の目的 ② 評価の方法と評価対象 ③ 記述方法
15:20～16:20	(8) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ① 評価計画 ② 中間発表準備

16:20～16:30	休憩
16:30～18:30	(9) グループ発表Ⅰ「中間発表」 ポスターセッション形式 ① 全員から付箋紙でコメント 30分 ② 考える時間 30分 ③ 授業計画のプレゼン 30分(1グループ5分) ④ 質疑応答
19:00～	懇親会

■第2日目

時刻	内容
8:30～8:45	(10)朝の挨拶 ※教育担当理事に挨拶をしてもらい、その後もコメンテーターとして残ってもらう
8:45～10:15	(11)グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 ① 役割決定 ② 授業の練習
10:15～11:45	(12)グループ発表Ⅱ「ミニ授業」 ① ミニ授業 24分(1人8分×3人) ② 他グループからのコメント 6分 ③ 討議・検討 12分
11:45～12:30	(13)閉会式 ① グループ作業の振り返り ② アンケート提出 ③ 修了証書の授与 ④ 閉会のことば